

修士論文概要他者の言動に対する傷つきやすさと自己愛の脆弱性の関係について
—皮肉理解の個人差の観点からの検討—

河野 雄二

1. 問題と目的

对人的傷つきやすさは、心理的ストレスと人間の適応に関する概念化において広く用いられる。日常生活の何気ない会話に注目すると、同じ言葉でも、人によっては、皮肉と捉えて傷つく人もいれば、そうでない人もいる。傷つきやすさは、心理的ストレスと人間の適応に関する概念化において広く用いられる。本研究では、発話への傷つきやすさと自己愛的脆弱性の関係を明確することが目的である。発話への傷つきやすさについては皮肉発話の理解に注目することで検討する。なお、本研究における皮肉とは、話し手の発話を聞き手の側が皮肉かどうか判断することと定義する。同じ発話に対して、皮肉とを感じる人もいれば皮肉と感ぜない人も存在する。そこで研究1では、大学生を対象として発話の状況に対する傷つきやすさの評価をもとに調査対象者の分類を行う。研究1の結果から、世代間の皮肉理解と自己愛的脆弱性の傾向を明確にすることを目的とする。研究2では、社会人を対象として発話の状況に対する傷つきやすさの評価をもとに調査対象者の分類を行う。

2. 方法

(1) 倫理的配慮：調査票には本研究の目的と内容、プライバシーポリシーを明記した。調査票の回収をもって調査協力への同意を得たものとする。

(2) 参加者：研究1では、A大学の心理学関係学部の大学生85人。内訳は男性48人、女性37人。研究2では、通信制のB大学の大学生76名、内訳は男性が52名、女性が24名。年齢は19歳～72歳であった。

(3) 手続き：野井(2016)より皮肉事例20例。

上地・宮下(2009)の短縮版自己愛的脆弱性尺度から20項目。合計40項目設定した。A大学では、授業時間に質問紙を配布して回答してもらった。B大学では、スクーリングの講義中に調査を実施した。

3. 結果

研究1では、大学生85名を対象として、発話の皮肉理解から、傷つくかどうか個人差の検討を行った。発話の傷つきやすさ20事例と自己愛脆弱性尺度の20事例を尋ねた。因子分析の結果、「皮肉」、「分かりにくい皮肉」の2因子が抽出された。次に、自己愛脆弱性尺度の因子分析を行い、「自己緩和不全」「自己顕示抑制」「承認賞賛への過敏さ」「潜在的特権意識」の4因子が抽出され、先行研究どおり、4因子解が妥当とされた。次に皮肉理解の2因子と自己愛脆弱性の4因子の相関を計算したところ、皮肉はすべての項目について比較的強い相関があり、分かりにくい皮肉は、自己緩和不全($r=.293$)と承認賞賛への過敏さ($r=.225$)に比較的強い相関があると示唆された。

研究2では、研究1の結果から、社会人を対象として、研究1で用いたのと同じ発話状況の傷つき20事例と自己愛脆弱性尺度の20事例を質問紙により尋ねた。発話の皮肉理解については、研究1と同様の2因子が抽出された。自己愛的脆弱性尺度は4因子が抽出され、先行研究と同様に4因子解が妥当とされた。年齢差に注目し、皮肉と年齢区分の相関を計算したところ無相関であった。しかし、分かりにくい皮肉と自己愛的脆弱性の下位尺度である自己緩和不全に比較的強い相関があると示唆された。 $(r=.217)$ また、分かりにくい

皮肉と自己顕示抑制($r=.215$)、分かりにくい皮肉と賞賛承認への過敏さ($r=.190$)に比較的弱い相関が認められた。男女別、年齢別の各スコアと、社会人の自己愛的脆弱性の下位尺度と分かりにくい皮肉には有意差がなく、交互作用もなかった。しかし、社会人と学生ともに、皮肉の傷つきと自己愛的脆弱性の関係性がすべてで有意傾向であり、特に強い影響をもつ心理特性が示唆された。

4. 考察

総じて、発話における皮肉の理解には、学生、社会人とも差がない。しかし、先行研究で明らかにされていない皮肉理解の傷つきのと自己愛的脆弱性の関係性が明らかになった。

本論文では事例を用いて発話の皮肉理解の傷つきを評価しているのが特徴である。例(朝寝坊して学校に遅刻した生徒に対して教師が「今朝は、さぞかしく眠れただろう」と言いました。あなたが生徒の立場なら、教師の発言を聞いて傷つきますか。)他者同士の発話さえ、皮肉と受け取り、あたかも自分のことのように感じてしまう。Heinz Kohutの自己愛の視点から考えると、自己と他者の境界が曖昧になり、他人の言葉も自分への言葉のように受け取り、傷ついてしまう自己愛脆弱性が関係すると考えられる。

本研究の今後の課題として、臨床現場において、分かりにくい皮肉(事後的な発話)さえ、皮肉と受け取り、傷ついてしまう人に対して、治療者がどのように関わっていくか検討する必要がある。

5. 引用文献

パーソナリティ研究

2005 第14巻 第1号 80-91 資料

© 日本パーソナリティ心理学会 2005

コフトの自己心理学に基づく自己愛的脆弱性尺度の作成1)

上地雄一郎・宮下 一 2009 自己愛的脆弱性尺度の妥当性の検討—友人関係への影響の検討を通して—岡山大学大学院教育学研究科研究集録 第041号

パーソナリティ研究

上地雄一郎 宮下 一 博谷真由美・岡本祐子 2010 青年の自己愛的脆弱性に関する研究の動向と展望 広島大学大学院教育学研究紀要 第3部 第59号 137-143

野井真理子 2016 他者の言動に対する傷つきやすさと認知の歪み・本来感の関連について—皮肉発話の理解からの検討—